

ちゅうせい ひと
中世の人びと
かまくらじだい むろまちじだい
 (鎌倉時代・室町時代)

平安時代の末頃から鎌倉時代にかけて、この地域は葛西氏が治めていました。葛西氏は葛西33郷(江戸川区、葛飾区ほか)を伊勢神宮に寄進しました。これを「葛西御厨みくりや」とといいます。御厨の記録には今井、小岩、篠崎など区内の地名が18個登場します。

16世紀になると、この地は、小田原ほうじょうの北条氏の勢力下に入りました。

次第に開発が進み、人口も増えて、耕地も広がっていきました。そのようすは、板碑いたびの分布によってある程度知ることができます。

板碑は、鎌倉から室町時代にかけてつくられた供養塔くようとうです。その分布によると、鎌倉時代には小岩から篠崎、東葛西などの江戸川沿いの地域、

また一之江境川いちのえさかいがわや小松川境川こまつがわさかいがわに沿った地域に集落ができ、室町時代になると、今の葛西をのぞく区内全域に広がっていたようです。

室町時代の末、関東では上杉、北条、里見さとみ、太田といった有力な武士達が対抗して、しばしば戦乱に見舞われました。

里見と北条による国府台合戦こうのだいかつせんでは、このあたりも戦場となり、田畑をあら



葛西御厨の郷名

され、戦闘にかりだされるなど農民達も少なからぬ被害を受けています。

天文^{てんぶん}7年(1538)の第一次の国府台合戦は、関東進出をめざす小田原の北条氏綱^{うじつな}、氏康^{うじやす}父子が、下総の小弓義明^{おゆみよしあき}、安房の里見義堯^{さとみよしたか}と国府台(千葉県市川市)で戦いました。小弓義明が戦死して北条方の勝利に終わりましたが、小弓氏の滅亡によって里見氏は房総最大の勢力となりました。

その後、上杉方の勢力を関東から追い出して力を得た北条氏康は、永祿^{えいろく}7年(1564)に再び国府台で里見義堯の子、里見義弘^{よしひろ}と戦いました(第二次国府台合戦)。苦戦の末、北条氏康は里見氏を破り、関東は北条氏の勢力下に入りました。

しかし、多年にわたる戦いのなかで築きあげられた北条氏の関東支配も、天正^{てんしょう}18年(1590)豊臣秀吉の小田原攻めによって、一挙に失われてしまいました。そして、この小田原攻めの功勞により関東を領することになった徳川家康の登場によって、新しい時代を迎えました。



十念寺所有の板碑
(江戸川区指定有形文化財)



江戸川グラウンド側から国府台を望む

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)